

## 平成 28 年度 和音くみやま作業所事業報告書

### 基本事項

平成 28 年度は生活介護事業 7 名、就労継続支援 B 型事業に 18 名の計 25 名の利用者とスタートした。就労継続支援 B 型事業では、2 月に 1 名、3 月に 1 名の退所があり、23 名で終えることになった。

支援については、利用者一人ひとりに対して個別支援計画を作成し、それに基づき利用者のニーズに応じた支援を行った。就労継続支援 B 型事業に関しては、可動域の低下など健康面での課題が見られている中、看護師を中心に健康体操や血圧の測定など継続して支援を行うことが出来た。

生活介護事業に関しては、大きな変化のない中、適切な支援を安定して行うことが出来た。

### 1. 利用者への支援

#### (1) 就労(作業)に関する支援

#### 就労継続支援 B 型

作業の中心である下請けの作業量が減った。そんな中、農産物や自主製品に意識を向け、例年以上の収入を作ることが出来た。

#### 生活介護

生活介護事業中心で行っている下請業者からは安定してたくさんの作業を頂き、昨年以上の収入を得ることが出来た。納期に追われることもあったが、就労継続 B 型事業にも応援を依頼するなどして、支援そのものに影響することはなく行えた。

回収作業に関しても、毎日交代で地域に出向き行うことが出来た。

#### ① 下請け作業

作業量としては昨年度までと比べると少なくなっているが、箱折りの作業を中心に、粗品づくりやネジの袋詰めなどの作業を継続的にいただき、作業を行った。日々の作業内容に大きな変化はなく行うことが出来た。また、高齢化などによる能力が低下されている利用者にとって、単純な工程の多い下請け作業は日々の日課の中で必要な作業としての意味合いが高まってきている。

## ②生産活動

### I.農作業

年間通していろいろな作物を順調に収穫することが出来た。

収穫した野菜は漬物などの加工も行い、その工程にもたくさんの利用者に関わってもらえることが出来た。

販売に関しては、作業所門前の無人販売だけでなく、社協が行うサロン活動への訪問販売や利用者による職場へ声掛け等販売先の幅を大きく増やし、収穫した野菜は販売しきることが出来た。また、月 1 回第二土曜に行っている福菜市も毎月安定した売り上げを残すことが出来た。

### II.自主製品

和紙製品を中心に自主製品を作り、文化祭などの地域行事や販売会で販売を行った。また、久御山町より「社会を明るくする運動」「自殺予防の講演会」など本年も注文をいただくことが出来、昨年度より高い収入を得ることが出来た。

## ③リサイクル事業

生活介護事業の午後からの取り組みを中心として行なったことに加え、週に 1 回は就労継続支援 B 型の仕事としても取り組んだ。地域での協力者も少しずつ増えており、毎日数件の回収の便を出すことができた。

## ④職場実習

昨年度から引き続きアグティでの実習を人数や作業内容、時間などこれまでと変わらない内容で一年間行なうことができた。

## (2)給食について

栄養所要量を基準にしてカロリーの摂り過ぎにならないように注意し、旬の食材などを使い、季節感のある献立による給食を提供することができた。調理については衛生面に充分注意を払い、咀嚼力に応じた刻み食などの配慮も委託業者の協力できめ細かく行なうことができた。

### (3)日常生活に関する取り組みについて

#### ①就労継続支援 B 型

作業や当番活動などいろいろな取り組みを通して、集団の中で生活を行なうといった場面設定を作ることができた。その中で挨拶や利用者同士のやり取り、買い物など社会生活に必要な経験をしてもらい、それらに対して必要な支援を個々に応じて行うことができた。

#### ②生活介護

小集団での生活の中で、時間をかけて一人ひとりの日常生活動作に対して支援を行うことができた。支援の度合いも障害の特性を理解し、直接援助から声掛け、見守りと工夫をしながら行なうことができた。

通年通して行えた新たな活動として「ワッハッハ体操」がある。「ワッハッハ！」と大きな声を出す取り組みで就労継続支援 B 型の利用者もニーズに合わせて活動に参加し行うことが出来た。生活介護の利用者からの発声といった部分では難しい部分はあしたが、メリハリのある空気を作れたこと、習慣化したことで、行うことへの意識がついたことなど利用者にとって良い活動となった。

#### ③その他

##### I)防災計画

防災計画に基づき、火災や地震を想定した年 2 回(12 月・3 月)の避難訓練・消火訓練を行った。その訓練は、地震からの火災を想定した取り組みや外に避難の際に障害物を設けるなど、いろいろな場面を想定しても行えた。

##### II)社会参加

文化祭などの地域行事への参加、農作物や自主製品の販売、リサイクル事業の回収などを通して地域へのかかわりを積極的に持つことが出来た。

### (4)レクリエーション行事と余暇活動支援について

お花見や、新年会など季節に合わせた行事などいろいろ行った。社会参加の目的も持って文化祭やふれあい福祉まつりなどの地域行事にも積極的に参加を行なった。グランドゴルフ交流会や障がい者の集い、クリスマス会にもちつき大会などご招待・ご協力をいただいた。

一泊研修旅行においては、行先を三重方面に決め、1 日目は滋賀県の信楽陶苑たぬき村で絵付け体験、2 日目は三重県の鳥羽水族館の見学を行った。絵付け体験した作品はゆうホールにて 2 週間展示させていただくことが出来、利用者の作品を多くの

方に見てもらえる機会の他、作業所の地域啓発の一旦にもなった。

定期的に行なう取り組みとして誕生会を行なった。誕生会で歌う歌の練習も作業の終わりの時間に行ない、作業後の楽しみとすることができた。

#### (5)健康管理

体操・散歩は毎日行なった。

健康診断は総合病院に依頼し、行なった。

看護師を配置し、利用者の方の問診や医療相談、利用者の通院同行も行うことが出来、利用者の病状把握を行うことが出来た。また、家庭にも健康や体調管理に意識を持ってもらうために看護師を中心に健康だよりを作成し、配布した。

就労継続支援 B 型事業においては、昨年度から始めた健康体操を継続して行うことが出来た。

生活介護事業においては、日々の検温や体重測定を行い細かな体調の変化にも気を配り支援を行った。

通院の際、状況を適切に伝えることが難しい方に対しては、通院に同行し病状など適切に伝えるなど、医療との連携にも心がけた。

#### (6)学習活動

具体的な活動は行なえなかったが、定期的に来る飲料水の販売や、お金の計算など必要に応じて個々に取り組むことができた。

#### (7)相談・助言

日中の利用者の様子などを電話連絡などにより、必要に応じて行なった。

また、サービスの利用に関する情報提供や、行政窓口や他の施設との連絡調整を行なった。

## 2. 日中一時支援事業・・・別紙

### 3. 支援者を広げていくために

地域の方々に作業所を知っていただくために、町内の行事に参加するなどを行なった。また、更に理解を深めていただけるように、作業所だよりの発行を行なった。後援会も多くの方に賛同をいただいている。

### 4. 地域での暮らしを支えるために

地域で暮らしていくために、一番大切な「人とのかかわり」を意識し、日々の散歩な中で出会う近隣の方、古紙・アルミ缶回収先の方、作業物品納品先の方等との挨拶ややり取りがしっかりできるよう取り組んだ。

また、利用者の方の生活を医療と連携して支えていく必要があるため、通院に同行し、日常の様子を伝えることでより良い服薬調整を行ってもらえるようにするなど、作業所職員が主体的に連携の中心になって調整する場面も増えた。

グループホーム建設については、京都府をはじめ久御山町や自治会、後援会、保護者会など様々な方のご協力のもと、平成 28 年度内での建設をすることが出来た。